

語り歌とシャンソン

～菅原洋一 魂を歌う～



クラリネット
鈴木直樹



アコーディオン
田ノ岡三郎



ピアノ
須藤信一郎



菅原洋一



日本の語り歌 坂田美子

今日でお別れ
サントワマミー
枯葉
薔薇色の人生
忘れな草をあなたに
その他

企画・構成・司会
神津善行

2024年11月22日(金)14:00開演 13:30開場

ノバホール (つくば市吾妻1-10-1) ■ チケット取扱

■ 全席指定 (税込)

一般 3,850円
TCF メンバーズ 3,300円

※未就学児童のご入場はご遠慮ください
※TCFメンバーズ割はお一人様4枚まで(当日券適用不可)
※つくばシニア割対象公演
※お車でお越しの方は近隣の有料駐車場をご利用ください
※曲目、出演者等の内容は都合により変更になる場合がございます

ノバホール TEL: 029-852-5881
つくばカピオ TEL: 029-851-2886
つくば文化振興財団 TEL: 029-856-7007
財団ホームページ tcf.or.jp

■ 発売日

ネット・電話予約 9月28日(土)13:00～
窓口販売 9月29日(日)9:00～



つくばシニア割とは

対象: つくば市に住民登録があり、2024年度に満70歳以上の方
割引額: 1,000円 (対象者本人1人に対しチケット1枚分)

申込方法: 電話予約/窓口購入の際にご申告 → 購入時に申込書記入+身分証提示

※TCFメンバーズ割引併用可 ※身分証明書は氏名・住所・生年月日のわかるもの(運転免許証・マイナンバーカード等)
※お支払は窓口のみ(銀行振込・郵便振替・セブナイレブン不可) ※ネット予約不可、当日券割引適用不可



シャンソンと語り歌

神津 善行

今回の公演では、シャンソンと語り歌を取り上げてみました。

ひとつの例ですが、イタリアの[カンツォーネ]と呼ばれるものは、詩よりも歌の旋律を重視しているし、フランスの[シャンソン]と呼ばれるものは、旋律よりも語り歌に近く、詩の内容に重点を置いている。音楽の起こった初期には、多分自由に言葉に節を付けて、声自慢が美声を張り上げたのであろうと思います。

オペラ(歌劇)が音楽と芝居を組み合わせ、観客を集めて興業を打つようになり、物語と音楽の進行が観客にわかりやすくすることが必要になり、物語の説明の部分にはオーケストラを使わずに単楽器・・・例えばチェンバロとかハープのような楽器で伴奏し、簡単な旋律で朗読のようなものに多小節を付けた歌のようなもので物語を進行させる手法をとり、この部分を[レスタティーボ]と呼び、歌手の声を聞かせる部分を[アリア]と呼んで身近な言葉に美しい旋律をつけて歌手の音量を十分に聞かせることでオペラは大衆の厚い支持を受けて育ってきました。

しかし時代の変化で現代ではオペラの上演は難しい時代になってきています。

主役級が最低4人。それに付随する助役級歌手にオーケストラに合唱団。舞台装置とそのため的人员。これは現代では採算の取れない興行になってしまうためです。

日本でも鎌倉時代には平家物語を語る琵琶師がいました。

これが様々な時代に併せて変化して、大雑把に言えば現代の歌謡曲にまで繋がってきて日本の歌謡曲も、歌う物語のストーリーが大切に、歌を構成している歌詞と旋律は「起承転結」が明確であったゆえに、半分は歌詞で涙し、それを表現する為の詞でありました。しかし、ラジオ・テレビの時代になって、一曲の時間を短縮するために少しずつ詞の長さが短くなり、現在では3番まであった歌は殆ど2番を歌わず、曲によっては3番もカットされる時代になってしまいました。

歌謡曲はつまらなくなると近年言われましたが、歌詞で楽しむ歌ではなくなったこともひとつの要因であると思います。そこで、詞の重要な部分と曲の重要な部分を分けて歌ってみると、それが理解できるのではないかと小生は思います。

今回は歌謡曲界のためにも実験的に演奏をしてみたいと思い、取り上げてみた次第です。どうぞお楽しみに。